

# 市政と市民をつなぐ「仕組み」を俯瞰するメモ

## 広報・公聴の構造的限界と『ポリネコ!』ならできる限界を超えるコミュニケーション

2022年6月24日  
株式会社ハンマーバード  
岩田takashi@hammerbird.jp

- ・地域コミュニティの持続可能性を構築するには、コミュニケーションを再構築することが最も有効です。
- ・下図のように既存のコミュニケーションには構造的な限界があり、地域と行政、地域の中でも相互理解に繋がる対話が構造的に困難です。
- ・『ポリネコ!』は、既存のコミュニケーションの構造的な限界を超えるコミュニケーションの仕組みです。

### <既存のコミュニケーション>

エビデンスを踏まえた対話による  
-地域課題の解決  
-共通目標=ヴィジョンの構築、運用  
が**とてもむずかしい**

誰がどのように  
読んでいるか  
よく判らない。



市役所

広報



知らない  
判らない  
関係ない

・月1~2回  
ほぼ世帯数分を発行

効果検証行わない

住民

基本的構造として**分離**

優等生な回答が  
多い、本当に  
これが実態?

対話に  
なっている?



市役所

公聴



回答しても  
どうせ、

・意識調査  
無作為抽出の上、  
回答依頼

・市政モニター  
無作為抽出で  
回答依頼

限られた機会、設問  
回答者は毎回リセット

住民

18歳以下の小中高生  
に対応できない  
(こども基本法)

### <新しいコミュニケーション>

エビデンスを踏まえた対話による  
-地域課題の解決  
-共通目標=ヴィジョンの構築、運用  
が**できる**

広報及び公聴のリプレイスメント（置き換え）にも対応

「報せる」  
「聴く」  
を同時に  
行える!



市役所

基本的構造として**一体**



知ってる!  
判る、学べる  
関わっている



住民

- ・人口減少、流出への対応
- ・地域の持続性確立
- ・総合計画、振興計画などの具体化
- ・次世代層の地域参加
- ・地域コミュニティの持続性確立

- ・回答参加者を増やして行ける  
(成長する母集団)
- ・繰り返し回答によって、  
回答の積み重ね、対話ができる
- ・データやファクトを学習した上  
での意思表示が行える(輿論)

- ・こども基本法に対応

状況の再認識と  
現実に対応した  
市民参画、運用を  
『ポリネコ!』で対応可能